

# 美術部へようこそ! ●香川大学教育学部附属高松中学校

「アート県」とも呼ばれる香川県で、学校外のアートプロジェクトやワークショップにも精力的に取り組む美術部の様子をご紹介します。

## 美術で世の中を豊かに

明るい笑顔と挨拶で迎えてくれたのは、香川大学教育学部附属高松中学校美術部の、10名の部員たち。「元気に挨拶して自分を表現するように」と、顧問の金丸高士先生は日頃から彼らに言い聞かせている。そして、「美術の本質は、『創造的なことで世の中を豊かにする』ことだと思う。また、部活動なのだから、人間としての成長が第一。初対面の人にも感じがよくて、何かを表現できることを大事にしたい」と語る。

作品の制作に取り組む一方、学校外のプロジェクトの活動に積極的なことにも、その思いは表れている。2010年開催、瀬戸内国際芸術祭(※)の「高松うみあかりプロジェクト」もその一つ。「海の生き物」をテーマに、青森ねぶたの技法を用いた「うみあかりオブジェ」をつくるというものだ。大人の参加チームと肩を並べ、デザインから木と針金での成形、和紙の張り付けまで、1か月で完成させた。金丸先生は、「初めて地元で開催された芸術祭。よくわからないけど関わってみようと思いを決めた。出し合った案の中から選んだデザインをもとに、みんなで練り上げていった。参加するからには、作品の質にも妥協はしない。なんとか完成にこぎ着けた」と当時を振り返る。

※瀬戸内国際芸術祭  
瀬戸内海の12の島と高松・宇野を会場に、3年に1度開催される現代アートの祭典。2010年に次いで、2013年の開催が第2回となる。

結果、「しゃちほこ」に想を得た愛らしいデザインの作品「Setouchi fish」は、同芸術祭総合ディレクター賞を受賞。思いがけない受賞は、喜びとともに大きな達成感を部員にもたらした。

## 厳しさも一つの経験

毎年12月に行う、幼児・小学生を対象としたワークショップの活動も目を引く。香川県立図書館と連携し、同館内でクリスマスカードなどを作り、絵本の読み聞かせを行う。

ちらしの作成、作るものや手順の検討、当日の進行など、企画・運営のほぼ全てを部員たちが担う。これを目当てに図書館を訪れる子がいるほど人気のイベントだ。「人前で話すのが苦手だったが、2年目、ようやく緊張しなくなった。小さい子の自由さには驚かされる」と話すのは2年生の部員。年下の子ともたちと接する機会は刺激になっている。

制作と学校外での取り組みの、バランスを考えて活動をする。関わる全ての人の要求に、高いレベルで応えるという、プロジェクト活動の厳しさを挙げながらも、「でも、それも含めて経験。制作の厳しさを味わうことも大切」と金丸先生は語る。今年の芸術祭プロジェクトには、企画から携わる。附属高松中美術部は、香川の環境を存分に生かし、世の中を豊かにする活動を楽しんでいる。



今年、女木島で行われる「オニノコ瓦プロジェクト」に参加する。自作の鬼瓦を掲げる部員たち。



左/暑さに悩まされながらも、1か月という短期間で制作した「Setouchi fish」。



右/ワークショップではサンタの帽子をかぶり、型紙を使ったクリスマスカードの作り方を教える。

# 教室を飛びだして

## wah document (ワウドキュメント)

学校外で行われる、子どもを対象とした美術のワークショップやプロジェクトを紹介するコーナーです。今回は、アイデアを即興的に実行するワークショップを行う「wah document」の活動をお伝えします。



術を実感した瞬間に発せられる、喉から思わず出たような声「wah (ワウ)」を冠したユニット、wah document。活動するのは南川憲二さんと増井宏文さんの二人。その内容は、各地に赴き、一般募集した大人や子どもの参加者とその場で出し合ったアイデア、街で集めたアイデアを、即興的に実行するというもの。彼らもメンバーとして参加する。

「大学卒業後、小学校の図工の講師に。自分が表現したいことを見失っていた時期だった。ある日、子どもが10分休憩の間に、思いつきで遊びをつくる姿を見て、『表現の動機って、瞬間的に手に入れられるんだ』と思った。それがこの活動を考えたきっかけ」と南川さんは語る。小学校の運動場に風呂をつくる、一軒家を人力で持ち上げるなど、どんなアイデアでも本気で実行する。目的は、アイデアが形になる、全員が身震いするような瞬間を共有すること。参加者を募るのは、自分たちにはないアイデアを求めるためだという。「特に、子どもと活動するとき

は思いもよらないアイデアが出るからおもしろい。2010年の、小・中学生とのプロジェクトは忘れられない。漁船を調達・改造し、無人島へ行って帰ってきた。幾多のトラブルを乗り越え、1年以上かけてやり遂げた。『人生、本気でやればなんでもできる』という名言を残した子がいた」と南川さん。

今後は少しスタイルを変え、これまでに体験した「wah」の瞬間を統合し、表現や造形を突き詰めていく活動をメインにするそうだ。



無人島に行くプロジェクトでつくった船、「はみだし丸」。漁船を調達し、甲板部分を自分たちで改造して完成させた。

<http://wah-document.com>

# 放課後

第3回

# A R T